

学生への支援を通して地域貢献を図る  
大分大経済学部同窓会「四極会」会長



前身の大分高等商業学校が1922年に開校し、大分大経済学部は今年、創立100周年を迎えた。これまで2万人以上の卒業生が社会に出て、地域経済の振興などに寄与してきた。「歴史の重みを感じて誇らしく、うれしく思う。伝統を築いた卒業生に敬意を表すとともに、後輩たちには新たな歴史を紡いでほしい」

四極会は全国に44支部があり、約1万1千人が在籍。会員同士の



## 魅力発信し強固な組織に

交流を促進するのをはじめ、在校生の学業を物心両面で支える。

会自体も3年後は設立100周年の節目に当たる。「学部が知の拠点として地域に貢献できるようサポートする。同窓生の関係を密にする会の魅力を発信し、強固な組織としたい」と強調した。

豊後大野市三重町出身。小売業を営む両親の影響もあり、72年に同学部へ進学した。卒業後は大分銀行に入行。副頭取やグループ会社の大分カード社長を歴任した。

退職後の2020年4月、大分大に採用された。学長補佐を務め、県内の産官学でつくる「おおいた地域連携プラットフォーム」で事務局長を兼務。地域課題を解決し、活性化を目指す。四極会の会長には今年6月に就任した。

健康維持のため、ゴルフや硬式テニスで汗を流す。子ども3人は独立し、大分市内で妻と2人暮らし。3人の孫と会うのを何よりの楽しみにしている。(指原祐輔)

三浦 洋一さん (69)